



JSQC ニュース

No.337

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 第20回品質機能展開シンポジウムに参加して
- 2-私の提言 “性弱説に基づく品質経営の実践”
- 2-支部の研究会〈中部〉
- 3-第121回講演会ルボ／第44年度事業計画
- 4-ANQ Congress 2015 Taipei／研究助成募集／行事案内／おみやみ／第44年度役員体制役割分担

第20回品質機能展開シンポジウムに参加して

玉川大学 経営学部 永井 一志

平成26年11月20日、21日の2日間にわたり、第20回品質機能展開シンポジウムが旧日科技連本部（千駄ヶ谷）にて開催された。20日に行われたチュートリアルセッションには約50名の参加者、21日のシンポジウムには120名の参加があった。品質管理の中でもかなり限定された分野のシンポジウムであるにもかかわらず、実に多くの参加者があったことからQFDに対する関心の高さをうかがうことができる。

20日のチュートリアルは城西大学の木内正光氏による「QFD早わかり」と玉川大学の大藤正氏による「QFDの今までとこれから」というテーマで講演が行われた。前者は初学者にとって理解が難しいと思われる事項についてQFDの原理・原則を用いながら平易な解説が行われ、後者はQFDの歴史を踏まえながらQFDの考

え方および今後のQFDに求められる事項が解説され、参加者はシンポジウムに向けての知識共有を行うことができた。

21日のシンポジウムは表に示すように1件の特別講演と6件の講演が行われた。近年では非常に珍しくQFD実践事例の報告が中心であり、多くの参加者が関心を抱いたのではないかと考えている。6件の事例講演を聞いての私見であるが、全ての事例がQFDと他の管理技法を融合させながら問題解決を図っていることが共通していた。例えばQFDと多変量解析または実験計画法を融合させながら開発の知見を得る報告、非常に少ないメンバーでQFDに取り組む際の工夫に関する報告、VOC解析にテキストマイニングを用いてQFDと結合するアプローチ、QFDとTRIZおよび品質工学を活用した製品開発、データ



ベース情報を利用しながらのQFDの検証方法、さらには信頼性手法とQFDの組み合わせによる品質確保の事例など、多岐にわたる事例が紹介された。

QFDは二元表を用いながら開発情報を整理する方法論であると端的に表現できるが、情報を整理しただけでは問題および課題に対する解決策を得ることは難しい。つまり、他のツールを併用することが必要となるが、今回のシンポジウムではQFDが様々なツールと結合可能であることが示されており、ますますQFDの可能性を見出すことが可能であった。

最後に、本年9月に開催されたQFDの国際シンポジウム（トルコ・イスタンブール）も第20回の節目を迎えており、今回の国内シンポジウムも偶然に20回目の開催であった。記念すべきシンポジウムが盛大に行われたことに喜びを感じると共に、企画委委員の方々やシンポジウムの運営を行った事務局に感謝を申し上げます。

表 シンポジウムの講演内容

	タイトル	講演者
特別講演	ビッグデータの光と影	統計数理研究所 丸山 宏 氏
講演 1	制汗剤の開発に向けた統計手法の活用	ライオン(株) 西田 勇一 氏
講演 2	新製品開発のしくみ構築による開発能力の強化	(株)MCシステムズ 郡田 裕生 氏
講演 3	テキストマイニングを活用したQFDの精度向上	TOTO(株) 上田 忠雄 氏
講演 4	QFD、TRIZ、品質工学を活用した技術開発プロセス	マツダ(株) 山田 洋史 氏
講演 5	ヤンマーにおける品質保証	ヤンマー(株) 山本 昇 氏
講演 6	信頼性分析による品質確保の取り組み	オムロン(株) 田中 桂三 氏

● 私の提言 ●

“性弱説に基づく品質経営の実践”

文化学園大学 光藤 義郎



「人は弱き者」ゆえ自我の欲求に負けて過去の成功体験である「経済的成長をベースとした拡大戦略」を続けていくことを止

められない。しかし、過去の成功体験を今後も続けていけるかどうかはかなり危うい時期に近付いている。地球資源の枯渇、環境問題、宗教や価値観の違いを元にした国家的紛争等々、更に日本では少子高齢化、産業空洞化、膨大な国の借金等々、過去の成長戦略で前提としていた条件が大きく様変わりしている。そういう中で、どうWin-Winモデルの構造に持ち込むかが「性

弱説に基づく品質経営」の課題であると考えている。

Win-Winモデルの構造としては、売手からの価値提供⇒買手が享受するメリット、即ち、顧客にとってのメリットを前面に出しながらも実はそれは自分たちの繁栄にもつながる、こういう構造を持つビジネスモデルを創造していくことがベースとなる。

あらゆる面（心技体金）に余裕がある、或いは多くの欲求が満たされた状態にある場合を除き、善の心を持つ人ほど、ハムレットの心境（to be or not to be, that is a question）を味わうことになる。特に「品質とコスト」等トレードオフの関係にある世界で、二者択一の意味決定を迫られると、この「ハムレットの世界」や「悪魔のさ

さやき」が、上は経営者から下はパートのおばさんまで、ホンネレベルで悩むことになる。「まあいいか」という心の弱さ、「大したことないのでは」という安易さ、「仕方ないもん」という逃げ、そういった心の動きによって品質（相手のメリットを優先する心）を犠牲にしてコスト（自らのメリットを優先する心）に走るケースは枚挙に遑がない。欲と煩惱の中で日々生活している人間にとって、これを理解するのは絶望的に難しい。人間の進化はまだ弱く、己のDNAに縛られ、古き脳に思考と行動を支配される生物としての域を出られていないからである。しかし、古い脳に支配された動物としての価値観ではなく、新しい脳によって形成される強靱で高尚な理想的価値観の元、正しいと信ずるTQMを愚直に推進していくことが本来進むべき道であり使命であると考えたい。品質経営がある種の理想追求であるなら、その取り組み方も日本人としての誇りを持った日本流の理想追求で行きたいものである。あの日本国憲法のように…。

支部の研究会 〈中部〉

中部医療の質管理研究会の活動

中部医療の質管理研究会

主査 國澤 英雄（中部学院大学）

中部医療の質管理研究会は、品質管理学会中部支部の研究会として2005年に創設され、2か月に1回の研修会、12月にはシンポジウムを行っております。シンポジウムには150名ほどの参加があり、また地元の新聞社の取材などで盛大な大会となっております。

研究会で取り上げるテーマは多様であり、2014年7月は関中央病院より「病院管理ツールとしてバランスト・スコアカード（BSC）は有効か」とのテーマで院内の展開状況の発表をして頂きました。

昨年のシンポジウムは、活発なQCサークル活動を行っている「博愛会病院の歩みと現状」と題した講演と事例発表、医療のTQM推進協議会の理事長上原鳴夫先生の講演などでした。

研究会の主要なメンバーである関中央病院（齋藤雅也院長）、松波総合病院（山北宜由院長）、岐阜日赤病院（中村重徳院長）、岐阜市民病院（富田栄一院長）では、活発な

QCサークル活動を行っております。研究会では、QCサークルのメンバーが質のよい改善化ができるように、スタッフは指導し支えること、また発表会等では、メンバーの努力を称え、メンバー個々人がヒーローになるように努めることなどQCサークルが活発化するための方策を申し合わせております。

病院を今以上に良くするためには、改善が重要です。今後とも、より多くの方々が中部医療の質管理研究会に入会し、改善活動を推進されるように希望いたします。



2013年12月15日(日)に行われたシンポジウム

第121回 講演会 ルポ

これからの 品質保証とTQM

2014年9月19日(金)、日科技連千駄ヶ谷本部1号館3階講堂にて参加者148名が集い、狩野紀明先生の講演会が開催された。先生が今日までの50年間にご研究された内容を、大きくA「成長に向けたTQM」、B「成長支援の品質保証」、C「世界の動向を踏まえたTQM推進を！」の3パートに構成され、その理論と体系を具体的な例とユーモアを交えながら、分かりやすくご講演頂いた。

Aパートでは、売上と品質に関し、「ビジネスアプローチを十分取っているのかどうかで必要な戦略が変わる」ことや、「買替購入では、3つの品質に分けて評価すべきである」ことなどが講述された。その後、品質の3つのレベルや狩野モデルを、プレゼントを初めとする身近なものを例に、分かりやすく説明された。最後に、品質改善の包括的手順として課題達成型QCストーリー(PDCAサイクル)・SDCAサイクル・問題解決型QCス

トーリーの関係を紹介され、この体系の理解と一体化しての活用が強調された。

Bパートでは、PDCAサイクルにおいて一番重要なものは何か、応急対策と再発防止ではどちらが重要かなどのQ&Aから始まった。品質保証のためには、「安全性に関する問題を起こし、顧客が購入を後悔するような“顧客激怒”を招かないようにすることが必要である」、「事故と予測予防では人の死因は限られるため、死亡事故を発生しうるケースを全てリストアップ(予測)し防止策を準備(予防)することができる」と講述された。さらに、「品質の縦にらみ評価」、「各参加者の役割を明確とせず、ただ参加するだけの慢性化した品質保証体系の見直しが必要である」ことや、「作業者に作業標準を遵守させることの重要性」が講じられた。

Cパートに関しては、時間の制約上、十分なお話を頂くことは叶わなかったが、TQM実施の上ではプロセスを結果でチェックすることにより、PDCAをステップアップさせることが大切では、とのご教示を頂いた。最後に司会の兼子毅先生の閉会挨拶をもって大盛況の中、閉会となった。

山下 雅代(電気通信大学)

一般社団法人 日本品質管理学会 第44年度事業計画

行事 / 月		H26 10月	11月	12月	H27 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
年次大会・通常総会			第44回 年次大会 28金・29土 東京都市大学												第45回 年次大会 13金・14土 積水化学 京都
研究発表会	本部								第107回 5/30土・31日						
	中部										第108回 26日(水)				
	関西											第109回			
講演会								第122回 本部	第123回中部 第124回関西				第125回 本部		
ヤングサマーセミナー															
シンポジウム							第152回 本部			第154回 本部	第155回 中部		第157回 本部		
事業所見学会	本部		第376回 6日(水) KYB相模 28日(金) 日産自動車				第379回			第381回					
	中部					第378回					第382回				
	関西		第377回 12日(水) Peach Aviation				第380回								
クオリティトーク		第91回 29日(水)			第92回 28日(水)		第93回		第94回		第95回		第96回		
その他の行事													ANQ2015 台北 22-25		
会合 / 月		H26 10月	11月	12月	H27 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
理事会		—	414回/415回 6日(水) 29日(土)	416回 18日(木)	417回 21日(水)		418回 25日(水)		419回 21日(木)		420回 23日(木)		421回 15日(火)	422回 28日(水)	423回 14日(土)
庶務委員会															
会員サービス委員会															
会計委員会															
規程委員会															
論文誌編集委員会		8日(水)	17日(月)	15日(月)	22日(木)	23日(月)	24日(火)	23日(木)	25日(月)	29日(火)	30日(木)	—	9日(水)	15日(木)	19日(木)

※論文投稿は委員会の開催10日前までお願いいたします。直前の投稿では審査開始が遅れることがあります。

ANQ Congress 2015 Taipei

2015年9月22日(火)～25日(金)に台北にて、ANQ Congress 2015が開催されます。(http://www.anq2015.org/)

JSQCからの発表希望者はJSQCを通じて発表申込み、アブストラクト等を提出していただきます。

アブストラクト：A4・2ページ、英語及び日本語

発表申込み締切：2015年3月5日(木)

申し込み先：電子投稿サイトを準備中です。開設は2月10日頃です。

詳細につきましては、JSQCホームページに掲載いたします。

事務局からのお知らせ

第44年度研究助成募集要項

趣 旨：21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含みます。

助成金額：1件5万円 4件以内

期 間：1年間（第44年度：平成26年10月から平成27年9月）

募集期間：平成26年12月～平成27年3月末日

詳 細：http://www.jsqc.org/ja/oshirase/jimukyokukara.html

行 事 案 内

●第90回クオリティトーク（本部）

テーマ：更なる品質向上のための「行為保証」

ゲスト：遠藤 勇氏（遠藤メソッド）

日 時：2015年1月28日(水)18：00～20：30

会 場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル3階A室

定 員：30名

参加費：会員3,500円 非会員4,500円

準会員・一般学生2,500円

（含軽食・当日払い）

申込方法：本部事務局宛E-mailまたは
FAXにてお申し込みください。

詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/
index.html#h270128

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

第44年度役員体制決まる

会 長	大久保尚武	積水化学工業
副会長	椿 広計	統計数理研究所
〃	末岡 徹	大成建設
理 事	綾野 克俊	東海大学
〃	新木 純	積水化学工業
〃	安藤 之裕	技術士
〃	伊藤 誠	筑波大学
〃	入倉 則夫	職業能力開発総合大学校
〃	大畑 丞	日本科学技術連盟
〃	兼子 毅	東京都市大学
〃	國澤 英雄	中部学院大学
〃	近藤 賢	積水化学工業
〃	鈴木 知道	東京理科大学
〃	住本 守	元 ソニー
〃	立林 和夫	元 富士ゼロックス
〃	水流 聡子	東京大学
〃	中島 健一	神奈川大学
〃	橋本 紀子	関西大学
〃	古川 静男	日本規格協会
〃	古谷 健夫	トヨタ自動車
〃	光藤 義郎	文化学園大学
〃	安井 清一	東京理科大学
〃	山田 秀	筑波大学
〃	綿民 誠	ジェイテクト
監 事	永田 靖	早稲田大学
〃	荒井 秀明	小松製作所
〃	中島 宣彦	日本科学技術連盟
顧 問	坂根 正弘	小松製作所
〃	中條 武志	中央大学

第44年度役員役割分担表

論文誌編集	◎鈴木(知)
学会誌編集	◎立林
広 報	◎兼子
事 業	◎綾野
研 究 開 発	◎安井 ◎伊藤
規 定	◎古川
会員サービス	◎中島(健)
選 挙 管 理	◎新木
庶 務	◎新木
会 計	◎大畑
最優秀論文賞/研究奨励賞	◎椿 ○鈴木(知)
品質技術賞	◎末岡 ○立林
品質管理推進功労賞	◎大久保 ○椿 ○末岡
国 際	◎水流
Total Quality Science編集	◎山田 ○鈴木(知) ○水流
標 準	◎住本
総 合 企 画	◎大久保 ○椿 ○末岡
研究助成特別	◎國澤
QC相談室特別	◎橋本
JSQC選書特別	◎飯塚(悦)
安全・安心社会技術連携特別	◎伊藤
TQE特別委員会	◎鈴木(和)
中 部 支 部	◎井川
関 西 支 部	◎近藤
ソフトウェア部会	◎長坂 ○三浦 ○渡辺(喜)
QMS有関性および審査研究部会	◎福丸
医療の質・安全部会	◎棟近

◎委員長、支部長、部会長 ○副委員長、副部会長

おくやみ

Total Quality Control (1961) の著者であるArmand V. Feigenbaum博士が11月13日に逝去されました。享年92歳。

GEの製造部門責任者のときに「TQC」や「品質コスト」の概念を提唱し、アメリカ品質協会(AQS)の副会長、会長を歴任、国際品質アカデミー(IAQ)の設立メンバーでもあります。品質やそのマネジメントの重要性を説き続け、産業界だけでなく行政などにも大きな影響を与えてきました。

ここに同氏のご冥福を祈り慎んで哀悼の意を表します。

一般社団法人 日本品質管理学会